

地域・家庭と連携した生活安全（防犯を含む）の取組 （萩市立白水小学校）

〈ねらい〉

コミュニティ・スクールの仕組みを有効に活用して、通学路での児童の安全を確保する取組を中心としながら、学校・家庭・地域、さらに関係機関との連携を推進することで、学校安全全般に係る「チーム学校」を構築し、児童の安全確保と安全意識の向上を育む安全教育の充実を図ることを目的として実施する。

取 組 内 容

- 1 実施期間：令和3年4月～令和4年2月
- 2 実施校：萩市立白水小学校（校長：梅森 芳典）
- 3 推進組織：学校運営協議会、白水小PTA、山田民生児童委員協議会、山田老人クラブ連合会、山田厚生会、萩警察署山田駐在所、山口県萩農林水産事務所、山口県農林総合技術センター、JA共済、萩市教育委員会、学校安全アドバイザー、少年安全サポーター、スクールガードリーダー、県学校安全・体育課

4 取組内容

（1）白水小見守り活動の推進

教職員や地域・保護者の皆さんの活動に加え、「子ども110番の家」との連携をPTAの活動として位置づけ、登下校の活動の充実を図っています。今回、見守り活動の組織化や高齢化、コロナ禍での児童との関係の希薄化に課題がみられたため、新たに「白水小見守り隊」を結成しました。ジャンパーを制作し、わかりやすく、無理なく、長く続けていただける仕組みを整え、多数の方からご協力をいただくことができました。



（2）通学路安全マップの見直し

通学路安全マップの見直しは、例年のPTA生活指導部による保護者の視点での見直しに加え、地区懇談会での学校、保護者、地域で協議した結果を取り入れました。今年度は、コロナ禍のため保護者からのアンケート結果を学校運営協議会で協議しました。また、児童の視点による点検と、教職員による通学路点検、さらに、学校安全アドバイザーの専門的な視点を生かした助言により、「子ども110番」の設置場所や防犯ブザー携帯の呼びかけなども加筆し、マップを完成させることができました。



（3）校地内点検

校舎の老朽箇所や新たな改善点の発見を目的に、学校運営協議会で校地内点検を行い、新たな改善箇所や応急処置のアイデアをいただくことができました。2学期には、4年生が校地内安全マップ作りに取り組み、校内に掲示するとともに、学習発表会で全校児童や保護者に発信しました。児童自らが校地内の安全に気を付けて生活する意識を高めることができたことが大きな収穫でした。



(4) 有害鳥獣への対応

本校では、猿やイノシシの出没時に緊急の集団下校をします。今年度は、地域だよりなどで目撃情報の連絡のお願いをし、情報をメールで速やかに共有をする体制を整えることで、児童の安全を確保する体制をつくりました。また、有害鳥獣への正しい対応の仕方について県農林総合技術センターの方に講話をしていただきました。

(5) 児童の安全意識・危険予知能力の向上

児童の危険予知能力の向上をめざし、不審者対応の避難訓練（ブラインド方式）、緊急時の児童の引き渡し訓練、3年生の自転車教室などを行っています。自転車の乗り方については、山田駐在所長のご指導のほか、教材や本校独自のKYT資料を使って繰り返し学習をすることで、子どもたちの安全意識の向上を図っています。低学年は基本的な交通ルールなどを学び、5・6年生は通学路安全マップを作成する学習を行うことで、危険予知能力を高めるだけでなく、リーダーとしての共助の意識も高めました。



(6) 地域連携から「絆づくり」へ

地域の皆さんには、見守り活動や学習活動でお世話になり、児童は「対面の会」「感謝の会」でご協力に対する感謝の気持ちを表していました。しかし、コロナ禍での関係の希薄化による課題も見え、地域の絆が児童の安全安心に不可欠だと考えました。そこで、見守り隊立ち上げだけでなく、地域だよりでの活動内容の発信や、自作の木製安全キーホルダーの配布など、児童から地域へ感謝の気持ちを伝える取組を行い、コロナ禍でも地域で子どもの安全を守るコミュニティを構築しようとする機運が高まるように努めました。



5 成果

- (1) 児童が交通安全・生活安全についてより理解を深め、安全意識の向上を図ることができた。児童の危険予知能力を高めることの重要性を再認識することができた。
- (2) 交通安全・生活安全の視点で、地域・保護者・関係機関との連携を深めることで、教職員が新しい視点をより意識したり、指導を充実させたりすることができた。
- (3) 通学路や校地内の危険個所の見直しができることで、児童への注意喚起が明確に示せるようになったり、安全対策や補修工事などの具体的な動きに結び付けたりすることができた。

6 今後の本校の安全教育の充実に向けて

- 児童の安全意識・危険予知能力の向上をめざし、本校の学校安全計画に位置づけるとともに、教職員がPDCAサイクルを意識しながら取り組んでいくこと。
- 絆づくりを大切にしながら双方の教育活動を意識することで「地域の人々と子どもたちが身近なかかわりをもつことで絆を深め、相互に守られるコミュニティとなっていく」という地域安全の基盤を大切にしていこう。



《4年生 校地内安全マップづくり 発表の様子》

《児童・教職員での通学路点検》